

関節リウマチ③ 薬について

今回は、関節リウマチに対して使われているお薬についてのお話です。

関節リウマチに対しては、大きく3種類のお薬が処方されます。

① 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID)

② 抗リウマチ薬 (DMARD)

③ ステロイド薬

各々について、ポイントを説明します。

① 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID) :

いわゆる「痛み止め」として使われるお薬です。鎮痛作用、抗炎症作用を期待して処方されます。しかし、骨関節の破壊を食い止めることは出来ません。また、消化器や腎臓に対する副作用があります。特に、無症状でも胃潰瘍を生じていることがあります。胃腸から吸収されて初めて活性を発揮するプロドラッグと言われる薬や、胃腸障害などが少ないとされる COX-2 選択性の痛み止めが発売されています。坐薬も吸収が速くよく効く薬ですが、副作用が少ないとは言えません。NSAID はリウマチのコントロールが良く痛みが軽減しているときは出来る限り減量した方がよいでしょう。逆に、効かないからといって2, 3種類の痛み止めを飲むことで重篤な副作用が生じることがあります。

② 抗リウマチ薬 (DMARD) :

疾患修飾性抗リウマチ薬といい、免疫調整薬・免疫抑制薬があります。痛み止めとは異なり関節リウマチの炎症を改善させ、関節破壊の進行を遅らせる可能性があります。DMARD の特徴は、①一般に効果発現まで時間を要します。効果が出るまで2, 3ヵ月かかることもあります。②効く人 (レスポンドー) と効かない人 (ノンレスポンドー) がいます。③長期間投与していると無効になることがあります。この場合、他剤に変更する必要があります (エスケープ現象)。④また、時に重篤な副作用が生じることがあるため、医師の指示にしたがって定期的に検査を受けて下さい。

③ ステロイド薬 :

強い抗炎症作用があり、DMARD が出現する以前は多量に使用されていましたが、ステロイド薬では関節リウマチを根治することが不可能なことがわかり、また重篤な副作用が生じるため、最近では極力使わないようになってきています。しかし、血管炎、間質性肺炎などの関節以外の症状が強い場合、発熱などの全身症状がある場合 (絶対的適応) や、NSAID、DMARD だけではコントロールできない場合、旅行や仕事など社会的・経済的な場合、妊娠や副作用などで NSAID、DMARD が使えない場合 (相対的適応) にステロイドが使用されます。

今までは、まず NSAID で様子を見て、ひどい場合に DMARD やステロイドを使用するという方法が一般的でしたが、関節リウマチでは関節破壊が比較的早い段階から起こることが明らかになり、積極的に抗リウマチ薬を使う傾向にあります。また、生物学製剤と呼ばれる、強力な抗リウマチ作用を持つ薬剤も登場してきています。

(文責 奥田康介)

関節リウマチ④に続きます